

定義・・・出力端子から電圧検出される点までの出力線による電圧降下分を補償する機能。

Q・・・出力端子から電圧検出される点までの出力線による電圧降下分とは？

A・・・出力線とは、出力端子から負荷へ配線する線材をいいます。
電圧降下とは、この線材の両端に発生する電圧のことをいいます。

★電線に電流を流すと抵抗により、線の両端では電位差が生じる性質があります。
この電位差は、線の許容電流値により変わります。

例えば

線の許容電流10Aに対して、1Aの電流を流した程度では電圧降下が少ない。

線の許容電流10Aに対して、5Aの電流を流した場合は、1Aより約5倍の電圧降下が生じます。

Q・・・配線材による電圧降下が0.5Vの場合どうなるか？

A・・・出力端子の電圧が12.0Vの場合、負荷の両端では11.5Vになってしまう。
0.5Vの電圧が低下することになります。

Q・・・配線材による電圧降下が0.5Vある。

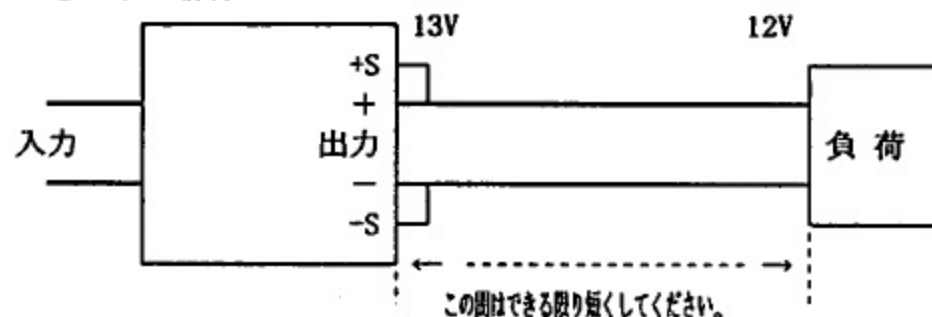
負荷の両端で12.0Vの電圧を加えたいがどうすればよいか？

A・・・電源の出力可変VRを調整して、負荷の両端電圧が12.0Vになるよう設定する。
この状態の時、出力端子の電圧は12.5Vになります。

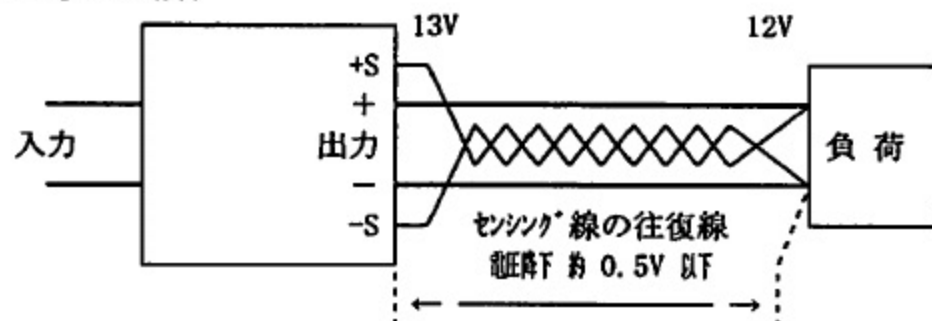
注意として、流れる電流値が変わると降下する電圧が変わるので、その都度設定しなくてはならない欠点がある。

A・・・センシング回路を使用すると、流れる電流値が変わっても、負荷の両端電圧は一定にたもたれます。ただし、電圧降下は約0.5V（センシング線の往復線）までの範囲です。

★センシングをしない場合



★センシングをした場合



■ご注意！ リモート・センシング端子をオープンにしますと、過電圧保護回路が動作する場合があります。
オープンには、しないでください。